



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. **1**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成17年11月29日発行

【編集発行】県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

【創刊号】

学長メッセージ

美しい自然, 輝く文化, 豊かな経済, いきいき地域社会

— 県立広島大学地域連携センターの目指すもの —

県立広島大学長 赤岡 功



今年4月, 既設三大学の再編統合により県立広島大学が開学しました。新大学は人間文化学部, 経営情報学部, 生命環境学部, 保健福祉学部の4学部と, これにかかわる4専攻を擁する大学院総合学術研究科から構成されており, これらは, 現在, 広島地域社会が抱えている課題にぴったりと焦点が合っています。

広島の美しい山川海, 伝統文化を継承し, すばらしい絵画・文学・映画などを育んだ広島の地域社会, そして, リハビリテーションと地域ケア, これらを維持発展させ, かつ, 地域経済を元気にすることにより, 地域社会に貢献していきたいと考えています。

県立広島大学には, 新聞などで「世界初」とか, 「市場を揺るがす」とか報道されるシーズや, 上記の課題解決に応える研究が数多くあります。これらのシーズ・研究を生かして地域社会の発展に貢献すべく地域連携センターが, 広島市, 庄原市, 三原市の三キャンパスに置かれ, センターを通じて地域と連携し, その成果をもって「広島県国際化推進プラン2005」の目指す「いきいき地球市民社会・世界に貢献する広島県の創造」に貢献したいと考えています。皆様のご協力を切に願っています。

地域連携センター長挨拶

新たな産学公民をめざして

地域連携センター長 野原 建一



県立広島大学は, 広島県が設置する大学として, 地域に貢献する「知」の創造・活用・蓄積を図り, 「地域に根ざした, 県民から信頼される大学」を目指して, 教育・研究・地域貢献活動を積極的に推進することとしています。

このため, 地域連携センターは, 地域課題に対して自治体等への政策提言を行うとともに, 産学官連携を推進し, 共同研究・開発事業を促進します。また生涯学習への貢献として, 大学主催の公開講座や地域と連携した様々な講座での人材育成や学習活動を支援します。さらに国際交流を促進し, 海外の大学と学生や教員を中心に交流し, その成果を公開していくなど, 本学の地域貢献活動を総合的に推進していきます。これらにより, 地域のシンクタンクとして中山間地の活性化をはじめ, 新たな産学公(自治体)民(地域住民)の連携に努め, 地域と大学の架け橋としてお役に立つことを念願しています。

広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

高大連携公開講座

「教育ネットワーク中国」による高大連携事業の一環として、高校生を対象した公開講座を2科目開講しました。

人間文化学部の「人間文化学への招待」には62名の申込みがあり、延べ120名の高校生が受講しました。

平成17年8月11日(木) 10:50～15:30

国際文化学科	健康科学科
食の文化史 (秋山 伸隆)	健康運動科学(三浦 朗)
小説と映画からみるイギリス社会 (天野みゆき)	生体リズムとスポーツ栄養 (加藤 秀夫)
弱さにおいて完全なものにされる —ジョン・ミルトンについて— (志鷹 英行)	脂質学への招待 (石永 正隆)

アンケートには「大学生になったような気分で楽しく聴けた」「大学の授業は奥が深いと思った」「ふだん当たり前になっていることに疑問を持ち、追究するのが大学での勉強なのだ分かった」「いろいろな視点から考えることに新鮮さを感じた」「専門的なことを学べて満足した。是非受験したい」「大学に対する気持ちが興味から期待に変わった」など、多くの感想・意見がありました。

また、8月17日(水)から23日(火)まで5日間をわたり開催した「情報セキュリティ入門 —コンピュータウイルスから個人情報まで—」(佐々木宣介) 講座では、延べ13名の高校生が熱心に受講しました。

市民企画講座

「心と身体の豊かさを求めて
～あなたの宝物見つけてみませんか～」

日時：平成17年8月27日(土)・9月3日(土)
9月10日(土) 13:00～16:00

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ

市民と大学の連携による公開講座が実現しました。広島市まちづくり市民交流プラザの養成講座で、企画のノウハウを身につけた市民が大学の公開講座を

企画・運営するという試みです。

まちづくり市民交流プラザによる約10月間のきめ細かな養成・実践講座に、大学から講師、そして企画・運営の助言者の派遣を行いました。

延べ116名の方が5回の講座を受講しましたが、ここでは講義に加えて実験やワークショップが行われ、活発な質問が出るなど、満足度の高い講座となりました。

回	タイトル	講師
1	人間関係作りを通じて豊かさを考える	中谷 隆
2	心理学から見た生きがいとは？	猪木 省三
3	「食と健康」のウソ・ホント？	加藤 秀夫
4	社会とのかかわりの中で自分再発見	粟島 浩二
5	豊かさの実り	中谷 隆

フェア出展

「社会人のための大学活用フェア2005」

日程：平成17年7月1日(金)～3日(日)

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ

ラーニングネットひろしまが中心となり、社会人の大学活用を推進するためのフェアが開催されました。

地域連携センターでは、「地域と大学の連携・活動事例発表展示コーナー」に、広島・庄原・三原の3キャンパス計8件のパネル展示を行いました。

また、「公民館等と大学の協働実践例発表会」では、市民企画講座のスタッフが、本学と連携した公開講座の企画について発表しました。

「南区魅力発見フェア」

日程：平成17年9月10日(土)

場所：広島産業会館西展示館

広島市内八区の魅力を掘り起こし、アピールする「広島八区覧会・八区物館」(主催：広島市)が平成17年9月から12月にかけて市内各地で開催されています。

地域連携センターでは、オープニングイベントである「南区魅力発見フェア」に参加し、大学紹介や地域連携センター紹介、サークル活動紹介などの展示を行いました。

研究紹介

書物が語る地域の力

人間文化学部国際文化学科 教授 西本 寮子

広島県内に伝わる和綴じの書物の調査を始めてそろそろ10年になる。長い間利用されることもなく保管されてきた書物を一冊ずつ取り出し、風通しを兼ねて必要な情報を書き留める作業であるからとにかく時間がかかる。当初目論んでいた県内伝存古典籍



架蔵本より。場合によっては落書も重要な情報になる。

のデータベース化は当然実現しそうもない。

かつて地域の文化は個の営みを越えた人と人との繋がりによって支えられていた。ほしい書物を即座に入手できる時代ではない。好奇心と探求心を満たす書物は人の手に

よって運ばれた。書物に向き合うことでゆっくり

と培われた知は、個の営みを越えて情報が溢れる都市から離れた地域の人々の教養を支えてきた。刻まれた情報からは、書物がそこに行き着くまでの道と知の形成の様相、ネットワークとも言うべき地域を越えた人と人との繋がりが見えてくる。蓄積された知はそれを共有する人々によって新たな文化の創造の場で生かされた。創造力を育んだ好奇心と想像力が地域の力の源であった。しかしいま、先人が作り上げてきた地域の力を裏付けるための資料が散逸と埋没の危機に瀕している。書物はそれが利用された地域で生かされてこそ意味がある。原資料の保存が大切なことは言うまでもないが、それ以前に、今どこにどれだけの資料が伝わっているのか、最低限の情報の収集とデータの蓄積が必要である。継承から始まる創造がある。そう考えながら時間を見つけては調査に出向く日々である。

(※研究者紹介は <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/investigation/scholar/index.html> に載せています。)

地域通貨と地域活性化

経営情報学部経営学科 教授 吉川 富夫

硬い石でできた貨幣、純度の高い金でできた貨幣、和紙でできた紙幣、銀行の口座に電子データとして記録されているだけの通貨など、通貨にはいろいろありますが、その機能は、①価値評価の基準、②サービスやモノの交換手段、③価値を蓄える、の3つです。このうち、地域通貨は、①と②という流通機能だけをもたせた地域限定の通貨です。

地域社会において、人々がお年寄りや幼児の世話をしたり、公道の清掃をしたりするサービスを、時間や点数、独自の紙券などに置き換え、これを通貨として他の同等のサービスやモノと交換して循環させるシステムということが出来ます。このような循環が成り立つためには、通貨の信用力が必要ですが、それは、地域に対する人々の愛着と地域のなかで交換され得る様々なサービスやモノへの価値評価によって支えられます。即ち、地域通貨には、市場化されていない領域と市場化されている領域とを媒介し、地域社会の様々なサービスとモノの流通を活発化させることが期待されているのです。

現在、地域通貨の施行例は日本全体で500件ほどありますが、そのうち広島県には8つほどの事例があります。以下に例示する地域通貨(紙幣)は、広島市千田商店街で挑戦されている地域通貨「センダバード」です。



今後の講座のご案内

公開講座 「これからもとめられるリーダーシップとコミュニケーション」

日時：10月26日・11月2日・9日・16日・24日 18:30~20:00 / 場所：県庁本館会議室

市民企画講座 「動き出せ！ 楽しんでいる私が見えてくる」

日時：11月6日・13日・20日・27日 13:30~15:30 / 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ

※詳細はホームページで紹介しています。

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

庄原地域連携センターの事業内容を御紹介します。庄原では、昨年度まで広島県立大学学術交流センターで行なってきた業務の多くを、新たにスタートした県立広島大学庄原地域連携センターに引き継ぎ、これまで以上に地域との連携を強化する活動を続けています。

昨年度末までの学術交流センターにおける活動は、以下のホームページを御覧ください。
<http://www.hiroshima-pu.ac.jp/gakujutu/>

本年度の主な活動

1 仲介業務（相談窓口）

① 企業と教員の仲介

教員のシーズを企業へ提供し、マッチングのお手伝いをしています。

② 市町へ教員の仲介

備北、芸北地方における市町の様々な活動へ教員を紹介しています（例えば、各種委員の紹介など）。

③ 地域振興の相談

地域活性化をどのようにすればいいかの相談会を行なっています。

2 産学官連携

① しょうばら産学官連携推進機構

6月27日に、赤岡学長も参加して第4回の理事会が行なわれました。同日、今年度から始まった「トップマネジメントセミナー」では赤岡学長が「文化かおる緑の庄原の発展と県立広島大学」という題目で講演を行いました。

今後、トップマネジメントセミナー（2回）、元気な地域づくりセミナー（2回）、さとやま環境セミナー（3回）などの実施が予定されています。

このほか、本学と、推進機構、庄原市、庄原商工会議所の共催で、11月19・20日に、第2回「まち」＝「大学」全国サミット in 庄原が開催されました。

② 三次イノベーション会議

6月1日に赤岡学長も参加して、平成17年度三次

イノベーション会議総会を開催しました。今年度は、みよし産学官連携セミナーを年に2回、大学のシーズと地域とより具体的に結び付けるために技術交流サロンを複数回実施する予定です。また、産学連携の先進地の視察を予定しています。

9月30日には、三次市のハートピア平安閣で第3回みよし産学官連携セミナーを開催しました。最初に赤岡学長が「伸びる企業のコア・コンピタンス（中核能力）の強化と産学官連携 ―三次からの発信―」の題目で記念講演を行いました。その後、「産学官連携が三次にもたらすもの」というテーマでシンポジウムを開き、コーディネーターとして、三次イノベーション会議事務局呑谷氏、野原地域連携センター長、パネリストとして各学部を代表する形で、江頭生命環境学部長、秋山人間文化学部長、堂本保健福祉学部長、吉川経営情報学部教授が参加しました。フロアとの意見交換のなかでは、従来から進めてきた生命環境学部との連携強化に加えて、健康に関する保健福祉学部のシーズの三次市民への提供、顧客満足度調査等企業経営における経営情報学部の利用、三次の文化遺産や健康な食生活にかかわる人間文化学部の協力等が議論されました。今回のセミナーでは各キャンパスの知的シーズを三次にどのように活用いただくか、さらには産学官だけではなく、市民という「民」との連携をどのように行うかがシンポジウムの中心となりました。

3 国際交流

① JICA研修の受け入れ

昨年度に引き続き、JICA地域別研修・南東欧「サポーティングインダストリー育成」の研修員7名を受け入れました。参加者はボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、モルドバ、ルーマニアからの研修員で、日本での研修は約1ヶ月（平成17年6月7日～7月10日）でした。期間中の14日間、庄原キャンパスで講義（日本の中小企業概論など）や発表会、ディスカッションなどを実施しました。

南東欧諸国は市場経済化、欧州経済統合の途上であり、外国資本の誘致は重要課題です。そのためには、外資企業の進出に対して、現地で部品・機械・



▲研修を終えて（庄原キャンパス）

設備を提供するすそ野産業（サポーティングインダストリー）を担う中小企業の育成が鍵となります。現地の行政官を日本に受け入れ、中小企業育成の政策立案・実施能力を向上させるのが、この研修の目的です。

6月29日には、研修員7名が赤岡学長を表敬訪問しました。

表敬訪問では、赤岡学長による大学の説明が行なわれ、研修員からは留学生や外国人教員、大学の特色ある専門領域や講義内容など、様々な質問が出ました。

最後に、記念写真を撮り、名刺交換を行って、和やかな雰囲気の中に交流を終えました。

この様子は本学ホームページで紹介されています。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/etc/visit/jica.html>

② 西南科技大学 鐘文橋科長 来訪

7月13日（水）（13時～14時）に西南科技大学国際合作与交流処科長・鐘文橋氏が来訪されました。



▲センター長室で、本センターの活動を説明

県立広島大学の地域連携センターの活動、国際交流の状況、更には研究内容（本学と西南科技大学の類似性）について議論を行いました。その後、庄原



▲庄原キャンパス学長室で、生命環境学部の説明

キャンパスをご案内しました。

4 生涯学習

庄原市中央公民館と共催して、公開市民講座を10月～12月にかけて本学庄原キャンパスで生命環境学部の教員6名で実施します。テーマは『『元気な備北の町づくり』を目指す県立大学の取り組み』です。庄原市や広島県の助成を受けた研究を地域へ還元していく一環です。

このほか、今後、リレーシンポジウム、学術講演会を実施する予定にしています。現在、講師や企画などの詳細を詰める作業を行っております。

5 その他

特許セミナーの実施

7月26日午後1時から午後5時まで、（社）発明協会の吉岡洋治部長を講師に、特許セミナーを実施しました。特許に関する基本的な知識や実践的な知識を講義して頂きました。教員に加え、学生、しょうばら産学官連携機構の関係者も参加して実施されました。参加者は11名でした。秋にはバイオに特化した形でセミナーを実施しました。



▲7月26日のセミナーの風景

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

ご挨拶

三原地域連携センター長
土肥 信之



三原キャンパスでは学部の特徴を生かし、保健・医療・福祉に関する生涯学習などを通して、皆様の健康増進や子育て支援、また医療や介護を必要とされる方々への情報提供などを積極的に行いたいと思っています。また、地域の保健医療福祉従事者との連携や講座提供により地域のケアシステムに貢献するのも、私たちの役目だと考えています。

更に、庄原や広島他のキャンパスの関連領域（栄養やバイオなど）とも連携した企画も今後進めていきたいと思っています。

大学は、地域の皆様に開かれております。その窓口としての地域連携センターを気軽にご利用いただきたいと願っております。

今年度の主な事業

①県立広島大学市民生涯学習講座

8月中旬～9月末にかけて「あなたの健康まもれていますか？～健康増進と障害予防～」を開催しました。全6回のこの講座には延べ240人の方が聴講されました。

第2回「笑い与健康」から講座風景と参加者の声



- ・笑いの学会誌には、様々な分野からの参加がみられ、本当「笑い」は幅広いと思いました。
- ・笑い与健康を研究する学問があることをはじめて学びました。とても興味深い話でした。大学での研究だけでなくこういう分野こそ一般市民にも還元していただけたらありがたいです。

②看護研究実践講座

日時：第1回 9月19日(月) 13:30～16:10

第2回 10月22日(土) 13:30～16:10

内容：①看護研究の基礎 ②統計の基礎

③論文の書き方 ④研究発表の仕方

③広島保健福祉学会 第6回学術大会・県立広島大学開学記念リレーシンポジウム

日時：平成17年11月12日(土) 13:00～17:10

場所：三原キャンパス1号館1階 大講義室

テーマ：生活習慣病予防

大会長：堂本時夫(県立広島大学保健福祉学部長)

プログラム

13:00 開会 学術大会会長挨拶

県立広島大学大学長挨拶

13:10 特別講演「生活習慣病予防の取り組み」

—21世紀の新たなストラテジーを目指して—

講師：国立長寿医療センター研究所疫学研究部長

下方 浩史

座長：堂本 時夫 大会長

14:20 シンポジウム「生活習慣病にならないために」

司会：県立広島大学コミュニケーション障害学科教授

石崎 文子

簡単な運動で生活習慣病予防を心がける

県立広島大学理学療法学科助教授 辻下 守弘

糖尿病予防・改善と運動

広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター所長

佐々木英夫

食は健康生活の礎なり

岡山学院大学食物栄養学科講師 市川 知美

広島県における生活習慣病予防の取り組み

県立広島大学看護学科教授 安武 繁

16:40 総合討論

17:10 閉会

研究パネル展示・発表会

日時：平成17年11月12日(土) 9:00～17:00

場所：三原キャンパス 1号館3階ラウンジ

本学の各学科紹介のパネルをはじめ、教員や地域保健福祉調査研究システム改善事業の研究を展示し、11～12時には質疑応答の時間を設けました。タイムリーなテーマであり、多くの方の出席と活発な議論が行われました。

④三原地域連携推進協議会との連携事業

三原シティカレッジの開講や学生ボランティア活動など様々な地域交流・貢献活動を展開しています。また、産学官連携として、産学交流セミナーや福祉用具研究会などを開催して、研究成果の情報提供や交流活動を行い、ネットワーク化を進めています。

学科紹介

三原キャンパス(保健福祉学部)では、各学科や教員個人でも積極的に地域連携に取り組んでいますので御紹介します。

看護学科

看護学科における地域連携の取組みのうち、現在行っている事業は、次のとおりです。

- ① 地域の医療関係者の方々に対してコラージュ療法の研修会の開催、三原・尾道・福山地域の看護職者への看護研究の講習会の開催など
- ② 広島県看護協会三原・尾道、福山・府中、三次・庄原の3支部の看護研究サポート事業を担当し、地域で働く看護協会の看護研究の指導・助言
- ③ 8市町村の合併した三次市の「健康21」にかかわる健康づくり、健康福祉計画への助言
- ④ 本学看護学生を中心とした「ピアエデュケーションによる生と性の健康教室」を高等学校において実施

理学療法学科

理学療法学科では、障害を持った人の生活を支援する福祉用具や企業と連携し運動療法機器の開発に取り組んでいます。また、今年度の重点研究事業として「砂浜はだし歩行の健康への評価(三原の自然を生かした健康法)―運動学的検証」や「地域住民主体の健康づくり組織の形成支援に関する研究」などを始めています。その他、転倒予防教室の開催など様々なかたちで地域と連携した活動を行っています。

作業療法学科

食事や着替えをしたり、仕事や勉強をしたり、趣味を楽しんだりといった、日常行う様々な作業をうまくできるように援助することで、健康で豊かな生活の実現を目指すのが作業療法です。作業療法学科では、高齢者のための心身機能の衰えを予防する健康教室での指導、からだやこころに障害をもつ人々の仕事や趣味の相談、発達に問題のある子どもの健全な成長を促す環境作りなどを通して、地域貢献をしています。

コミュニケーション障害学科

コミュニケーション障害学科では、コミュニケーションに障害を持つ人々の生活を支援するために地域に根ざした活動を行っています。例えば、ことばの発達に問題のある子どもさんの医療相談事業や自

閉症の子どもさんをもつ親の会の支援など、地域の教育機関や福祉施設との連携を深めながら活動しています。また、脳卒中後に失語症になった患者さんの会や患者さんの自立を支援するボランティアサークルの設立や運営などに、言語聴覚士の資格を持つ教員が専門家として助言指導を行っています。

人間福祉学科

学科としては、今年はず、「高大連携公開講座」として8月4日に「人間福祉学入門」を行い、37名の高校生が受講しました。秋には「三原シティ・カレッジ講座」で「シニア世代の暮らしを考える～地域づくり・生活づくり～」を計画しています。

これとは別に個々の教員は、多様・多彩な形で地域と連携した活動や研究を展開しています。ホームレス支援、介護支援専門員の研修会の企画立案と講師、発達障害児の教育研修講師、不登校児童・生徒の適応指導研究協議会委員、障害児・者施設の福祉サービス評価調査委員、地域住民ホームヘルパー養成講座講師、地域福祉計画や障害者計画等の策定委員会委員、……などの活動があり、地域と連携した研究も多く行っています。

附属診療所紹介

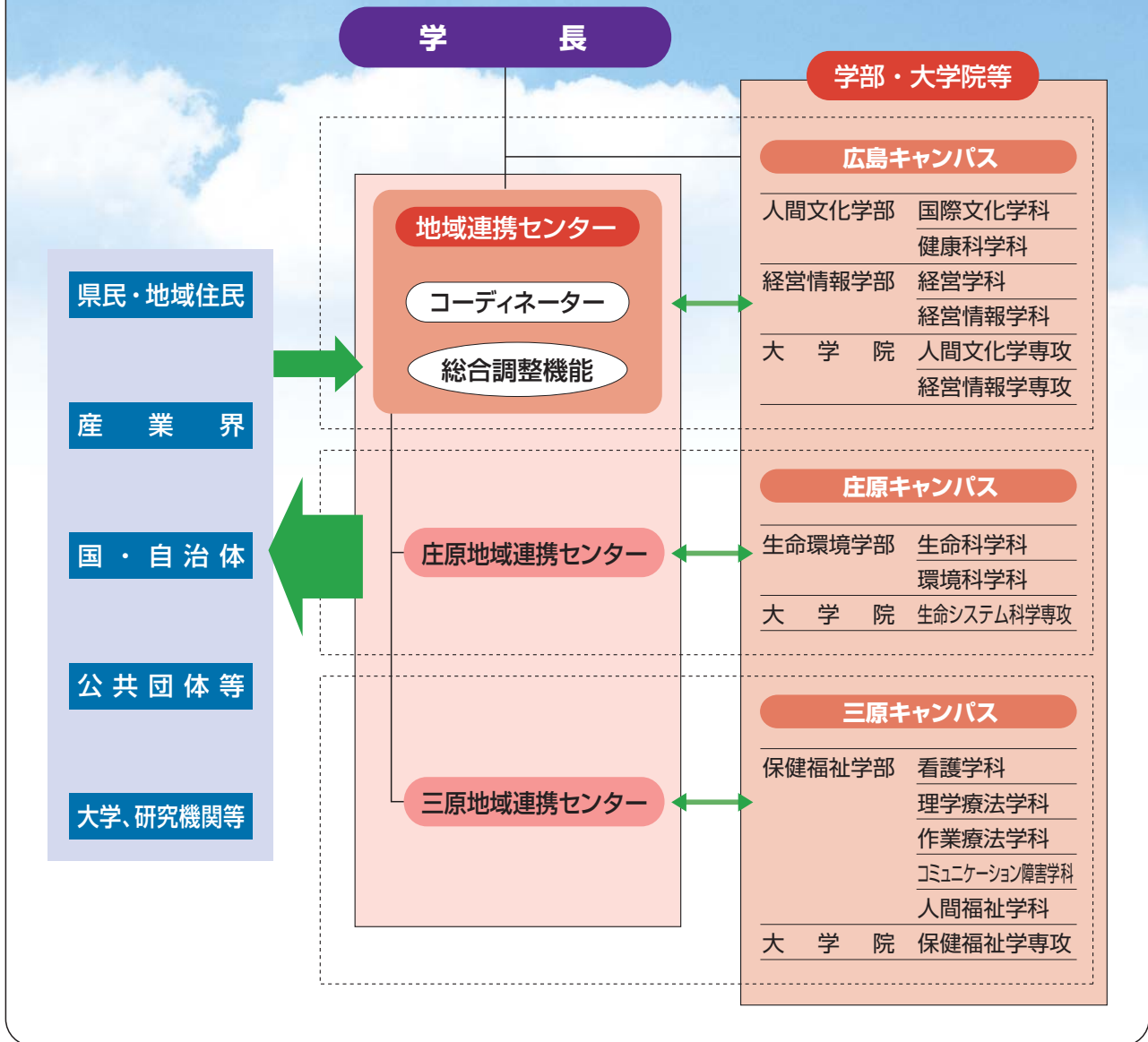
附属診療所では、成人・小児中枢神経疾患の診断とリハビリテーション、病疾に関する相談、がん放射線診療で、県民の健康増進と最先端医療研究に携わっています。



▲理学療法室・作業療法室

【診療受付時間】 平日 9時～15時
 【診療所TEL】 0848-60-1132

センターの組織



編集後記

県立広島大学の開学と同時に広島・庄原・三原の3キャンパスに新たに誕生した地域連携センターの活動をお知らせする広報紙の創刊号をお届けします。

本センターは、産官学連携・生涯学習・国際交流を中心に、地域社会と連携し、その発展のため努力するとともに、地域住民の方々との交流の場をできるだけ設定できるよう努めて参りたいと思います。大学の規模が3キャンパス4学部へ拡大したことで、活動も多様化し、かつ、広域化しますので、その内容を紹介する紙面も今後一層の充実を図りたいと考えております。御支援くださいますよう、お願い申し上げます。(H)

編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
電話(082)251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話(0824)74-1704/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター

〒723-0053 広島県三原市学園町1番地の1
電話(0848)60-1200/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp